

僕は泣いていた ああ、オイコノミア！

僕は彼方に駆け回り、ほとぼしる唾液は砂に沈み込んで染みになった
倒れ込んでいた

僕はむくりと立ちあがり、肩を空に見せつけた

僕は室に根を張り正確にママをみごもる

そして蛹のようにただただ時間を待っている

遠くへ 規則正しく

暖かな木琴の音になる

交差する脚の間に石が地表には輝いている。